

令和6年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調書番号 446
事務事業名称		学校図書館支援事業								
担当部署 (R7年度機構)		部:	総合教育部	課:	中央図書館	区分	任意的事業			
基本項目	総合計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち			細区分	任意的区分			
		施策目標	16.子どもたちの生きる力を育む教育が充実したまち			性質	子育て・教育			
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
						○				
	事業期間		事業開始： 2014(H26)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)							
	根拠法令等		図書館法、学校図書館法、子どもの読書活動の推進に関する法律、学習指導要領							
	関係附属機関等		該当なし							
詳細項目	関係補助金等		該当なし							
			補助金性質： —							
	事業の目的 (最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態		学校司書への人的・技術的支援及び学校図書館システムの管理・技術的支援を行うとともに、学校図書館の整備及び読書活動の支援や調べ学習などの授業支援を行い、学校図書館の充実と市立図書館蔵書の効果的な活用を図ることで、子どもの読書活動をより一層推進し、言語能力及び情報活用能力を育成する。このことにより、子どもたちが生涯にわたり学び生きる力を育む教育環境を提供する。							
	対象者(受益者)		市内小中学校に在籍する児童・生徒/市内小中学校図書館を活用して児童・生徒の読書活動および学習活動の指導をする教職員							
	現状・課題		児童・生徒の読書離れが進んでおり、読書活動を推進して学力向上につなげていくことが課題である。そのために、児童期から身近に読書に親しむことができる環境を整備するとともに、学校図書館の機能充実を図る必要がある。							
	事業の概要		学校図書館の充実と市立図書館蔵書の効果的な活用を図ることで、子どもの読書活動を推進し、自ら学び考える力の育成を支援することを目的に、学校教育部(教育指導課)の事業計画「読書活動推進事業」と連携し、中央図書館から配置した学校司書への人的・技術的支援を行うとともに、市内小中学校の学校図書館における児童・生徒への読書環境の整備及び読書活動の支援や調べ学習などの授業支援などの取り組みを行う。							
	年間の主な事務		・学校図書館システムの維持管理、技術支援 ・学校司書への支援・育成、服務関係の事務処理 ・調べ学習コンクール等学校図書館を利用するイベントの開催 ・市内小中学校への搬送便を利用した団体貸出 ・電子図書館の利用促進 ・調べ学習等団体貸出(小学校) ・電子書籍の充実・利用促進(電子書籍 読み放題パックのタイトル数) ・学校図書館の利用促進(児童一人当たりの学校図書館で借りた冊数)							

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人員体制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績			
	正職員		1.97人	—	—	—	—		
	再任用		0.60人	—	—	—	—		
	任期付職員		0.80人	—	—	—	—		
	会計年度任用職員		0.13人	—	—	—	—		
	特別職非常勤		0.00人	—	—	—	—		
	附属機関委員		0.00人	—	—	—	—		
決算額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)	
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	22,347	—	—	—		
			会計年度任用職員	644,237	—	—	—		
			特別職非常勤	0	—	—	—		
			附属機関委員	0	—	—	—		
		人件費計		666,584	—	—	—		
		物件費計		12,964	—	—	—	15,896	81.6%
	歳出計		679,548	—	—	—			
	歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	※(留意事項) ※正職員・再任用・任期付 の人件費は、人員配置を もとに平均人件費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。
		府支出金		0	—	—	—	0	
		受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
		市債		0	—	—	—	0	
		その他		0	—	—	—	0	
		歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	—	—	—	0	
	一般財源(物件費充当のみ)		12,964	—	—	—	15,896		

3. 具体的な活動(アクティビティ)					
年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 調べ学習団体貸出	冊	7,742 冊	— 冊	— 冊	— 冊
② 電子書籍の児童向けコンテンツの充実	タイトル	562 タイトル	— タイトル	— タイトル	— タイトル
③ 学校図書館の利用促進	冊	22.3 冊	— 冊	— 冊	— 冊

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)							
アウトプット①	説明	子どもに本を届ける基金を活用して団体貸出用の絵本や児童書を購入する。					
		基金繰入金で団体貸出用の児童書、児童向け電子書籍を購入する。					
	指標		R6	R7	R8	R9	単位
		目標	100	100	100	100	%
		実績	99	—	—	—	%
	算出方法	子どもに本を届ける事業で団体貸出用に配分された予算の執行率					

直接アウトカム(結果による変化・便益)							
アウトカム①	説明	市小中学校において調べ学習等団体貸出が増加					
		市小中学校における調べ学習団体貸出冊数					
	指標		R6	R7	R8	R9	単位
		目標	12,000	12,100	12,200	12,300	冊
		実績	14,755	—	—	—	冊
	算出方法	図書館システムにより小中学校における調べ学習等団体貸出冊数を算出					

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

学校による団体貸出が12,300冊となり、児童による図書館利用が電子書籍、紙の資料とも現状よりも増加する。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	◆令和6年度、全19中学校及び小学校20校の学校司書25人(うち小中2校兼務8人、小学校2校兼務6人)と連携しながら、学校図書館整備の支援や学校図書館システムの管理・技術的支援、授業で活用するための資料提供等を行っている。 ◆令和6年度は、市立全小中学校の学校図書館用端末の入替を行った。 ◆令和6年度の学校図書館における児童一人当たりの貸出冊数は令和5年度と比較すると、0.43冊増加している。 ◆令和5年度に引き続き、市立小学1年生をはじめ令和6年度新規の児童生徒タブレット端末用アカウントを、ひらかた電子図書館に登録した。また、ひらかた電子図書館へログインしやすくするため、児童生徒用タブレットの端末のホーム画面にリンクアイコンを追加した。7月より、学校での利用に適した、利用者数に制限なく同時にアクセスできる「児童書読み放題パック」を365点追加した(利用可能合計562点)。令和6年度の児童生徒の電子書籍閲覧数は令和5年度と比較して3.12倍増となった。
R7 年度	
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度 取組方針	・子どもの読書活動推進に向け、学校司書と連携し、学校図書館整備の支援や学校図書館システムの管理・技術的支援、授業で活用するための資料提供等を行う。 ・電子図書館における「児童書読み放題パック」を追加し、電子図書館の利用促進に努める。	R7年度 方向性	現状維持
--------------	--	-------------	------

参 考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		拡充	現状維持	—	—	—

令和6年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 475	
事務事業名称			図書館オンラインシステム運営事業								
担当部署 (R7年度機構)			部： 総合教育部		課： 中央図書館		区分	任意の事業			
基本 項目	総合 計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち					細区分	任意的区分		
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち					性質	子育て・教育		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度 —	R7年度	R8年度	R9年度		
	事業期間		事業開始： 1996 (H8)年度					～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)			
	根拠法令等		図書館法、枚方市立図書館条例								
	関係附属機関等		該当なし								
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —								
詳細 項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		図書館システムを安定的に運用することで、図書館利用者がスムーズに利用でき、市民からのレファレンス(図書館が利用者からの問い合わせに応じ、図書館資料等を使い利用者の調べものをサポートする業務)に対しても適切な対応ができている状態。								
	対象者(受益者)		・枚方市内及び北河内7市に在住・在学・在職等の図書館利用者								
	現状・課題		貸出・返却にはじまる様々な図書館サービスをスムーズに行う必要がある。 レファレンスを依頼するために、窓口へ来るのに不便が生じている。								
	事業の概要		図書館サービスを効率的効果的に提供するため、図書館コンピュータシステムを安定的に運用し、中央図書館、分館、分室をオンラインで結び、蔵書管理、貸出返却業務、インターネットによる蔵書検索サービスや予約サービス等を行う。 図書館資料にICタグを貼付し利用者自身で貸出手続きを行えるICタグシステム、図書館で借りた本の記録が残せる「ひらかたブックダイアリー」の導入。 また、図書発注の作業のために既に導入しているRPAを範囲を広げて維持し、発注業務の一部を短縮することで、図書の納品を早めることができるほか、職員が選書業務等に時間を割り当てることができ、市民サービスの向上に繋がる。								
年間の主な事務		・次期システムの仕様設計 ・障害発生時の対応 ・分館、分室との調整 ・ICタグシステム(資料の貸出、返却等の資料管理に使用)、ひらかたブックダイアリー(読書履歴が記録できる通帳型の読書手帳)の導入。									

2. 事務事業への投入コスト(インプット)					
人員体制	(人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.71人	—	—	—
	再任用	0.00人	—	—	—
	任期付職員	0.00人	—	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
	特別職非常勤	0.00人	—	—	—
	附属機関委員	0.00人	—	—	—

(千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)	
決算額	歳出	内訳							
		正職員・再任用・任期付職員	5,458	—	—	—			
		会計年度任用職員	0	—	—	—			
		特別職非常勤	0	—	—	—			
		附属機関委員	0	—	—	—			
		人件費計	5,458	—	—	—			
		物件費計	201,709	—	—	—	206,914	97.5%	
		歳出計	207,167	—	—	—			
	歳入	国庫支出金	85,245	—	—	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付 の人員費は、人員配置を もとに平均人員費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。
		府支出金	0	—	—	—	—	0	
受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	—	0		
市債		0	—	—	—	—	0		
その他		0	—	—	—	—	0		
	歳入計(物件費に充当される特定財源)	85,245	—	—	—	—	0		
	一般財源(物件費充当分のみ)	116,464	—	—	—	—	206,914		

3. 具体的な活動(アクティビティ)						
年間の主な活動指標		単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
①	図書館コンピュータシステムの運用に必要な保守点検や改修等を行う。	日	365 日	－ 日	－ 日	－ 日
②	自動貸出機を利用した資料貸出	%	36 %	－ %	－ %	－ %

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明	指標	図書館コンピュータシステムが安定的に移動する。					
		システムが安定的に移動した日数					
			R6	R7	R8	R9	単位
		目標	365	365	365	366	日
		実績	365	—	—	—	日
		算出方法	システムが安定的に移動した日数				

ロジックモデル

アウトプット②

説明	指標	ICタグシステム導入館数					
		ICタグシステムを導入した館数					
			R6	R7	R8	R9	単位
		目標	2	9	15	15	館
		実績	2	—	—	—	館
		算出方法	ICタグシステムを導入した館数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	指標	図書館利用者が蔵書検索をはじめとするサービスをスムーズに受けることができる。					
		図書館HPアクセス数					
			R6	R7	R8	R9	単位
		目標	1,482,875	1,572,804	1,572,804	1,598,145	アクセス
		実績	1,648,827	—	—	—	アクセス
		算出方法	目標値は直近3か年の平均値。ただし、R4年度はシステム不具合により計上不能のため、R4年度を除く。 令和7年度以降の目標値は令和6年度以降目標値を実績値として算出				

アウトカム②

説明	指標	自動貸出機で利用者個人で貸出手続きを行える。					
		貸出数のうち自動貸出機が占める割合					
			R6	R7	R8	R9	単位
		目標	20	76	80	80	%
		実績	36	—	—	—	%
		算出方法	自動貸出機による貸出冊数／自動貸出機を設置した館の貸出冊数				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

自動貸出機を利用した貸出冊数が4,500,000冊となる。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	・分館、分室をオンラインで結び、蔵書管理、貸出返却業務、インターネットによる蔵書検索サービスや予約サービス等を行っている。 ・市駅前図書館、中央図書館へICタグシステムを導入し、図書館の職員を介さずに利用者の操作のみで完結する自動貸出機を導入することで「待たない」貸出手続きを実現するとともに、「いつでも借りられる」をコンセプトにした24時間利用可能な予約図書受取ロッカーを枚方市駅に設置し、利用者の利便性の向上を図った。 ・利用者が自身の読書履歴を記帳できる通帳型冊子「ひらかたブックダイアリー」の配布・販売、及び印字機を中央図書館と8分館に設置した。
R7 年度	
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度 取組方針	・分館、分室をオンラインで結び、蔵書管理、貸出返却業務、インターネットによる蔵書検索サービスや予約サービス等を継続して行う。 ・市駅前図書館を除く7分館へICタグシステムを導入し、図書館の職員を介さずに利用者の操作のみで完結する自動貸出機を導入することで「待たない」貸出手続きを実現し、利用者の利便性の向上を図る。 ・利用者が自身の読書履歴を記帳できる通帳型冊子「ひらかたブックダイアリー」の配布・販売、及び印字機を分室に設置する。	R7年度 方向性	拡充
--------------	--	-------------	----

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
	拡充	拡充	—	—	—

令和6年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 476	
事務事業名称			各図書館及び分室施設維持管理事業								
担当部署（R7年度機構）			部：総合教育部		課：中央図書館		区分	持続的事業			
基本 項目	総合 計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち					細区分	維持管理区分		
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち					性質	子育て・教育		
	市長公約との関係性		所信表明 （R5年9月）	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		
	事業期間		事業開始： 1973(S48)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)								
	根拠法令等		図書館法、枚方市立図書館条例								
	関係附属機関等		該当なし								
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —								
詳細 項目	事業の目的 （最終アウトカム） ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		施設及び設備を適切に維持管理することで、利用者が安全かつ快適に図書館を利用できる状態。								
	対象者(受益者)		・枚方市内及び北河内7市在住・在学・在職等の図書館利用者								
	現状・課題		安全性や衛生面の観点から施設の経年劣化等に対して、改善を施す必要がある。								
	事業の概要		図書館及び分室の利用者に快適な利用環境を提供する目的で、図書館および分室の清掃業務、空調機器等の維持管理および修繕等を行う。								
年間の主な事務		・中央図書館及び分室の施設の修繕 ・中央図書館及び分室の維持管理に伴う委託業務の仕様書の作成、契約手続きの依頼 ・中央図書館及び分室の維持管理に伴う委託業務の支払い業務 ・中央図書館及び分館・分室の維持管理に伴う工事、及びその設計について施設整備課に依頼、そのほか管理業務									

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人員体制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績			
	正職員		0.78人	—	—	—	—		
	再任用		0.35人	—	—	—	—		
	任期付職員		0.35人	—	—	—	—		
	会計年度任用職員		0.00人	—	—	—	—		
	特別職非常勤		0.00人	—	—	—	—		
	附属機関委員		0.00人	—	—	—	—		
決算額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)	
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	9,614	—	—	—		
			会計年度任用職員	0	—	—	—		
			特別職非常勤	0	—	—	—		
			附属機関委員	0	—	—	—		
		人件費計		9,614	—	—	—		
		物件費計		58,143	—	—	—	56,756	102.4%
		歳出計		67,757	—	—	—		
	歳入	国庫支出金	0	—	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付の 人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。	
		府支出金	0	—	—	—	0		
		受益者負担(使用料・手数料)	0	—	—	—	0		
		市債	0	—	—	—	0		
		その他	0	—	—	—	0		
		歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	—	—	—		0
	一般財源(物件費充当分のみ)		58,143	—	—	—	56,756		



3. 具体的な活動(アクティビティ)					
年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 必要な施設保全や保守点検を行う。	件	1 件	一 件	一 件	一 件

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明

図書館及び分室が適正に維持管理される。

修繕料、工請費に係る当初予算額に対する決算額の割合。

R6

R7

R8

R9

単位

目標

100

100

100

100

%

実績

116

—

—

—

%

算出方法

決算額/当初予算額×100

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明

—

—

R6

R7

R8

R9

単位

目標

—

—

—

—

—

実績

—

—

—

—

—

算出方法

—

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)					
市民が年間を通じ、図書館利用に支障が発生しない。					

6. 取組実績に対する自己分析・総括					
R6 年度	・市有建築物保全計画に基づき、中央図書館屋上防水改修工事を行ったほか、落雷の影響により故障した中央図書館非常放送設備の改修工事を行った。				
R7 年度					
R8 年度					
R9 年度					

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)					
R7年度 取組方針	市有建築物保全計画に基づき、牧野生涯学習市民センター・図書館外壁更新工事を予定している他、施設利用者の安心・安全を優先し、修繕等の対応を図る。				R7年度 方向性 現状維持
参 考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)
		現状維持	現状維持	—	—

R10年度の方向性 (R9実績測定)					
—					

令和6年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 477	
事務事業名称			自動車文庫運営事業								
担当部署 (R7年度機構)			部：総合教育部		課：中央図書館		区分		任意の事業		
基本項目	総合計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち					細区分	任意の区分		
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち					性質	子育て・教育		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		
	事業期間		事業開始： 1973(S48)年度					～	事業終了予定： 未定(継続実施含む)		
	根拠法令等		図書館法、枚方市立図書館条例								
	関係附属機関等		該当なし								
	関係補助金等		該当なし								補助金性質：
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		自動車文庫の運営によって、地域間で生じる不便が解消し、市内全域できめ細かな図書館サービスを受けることができる状態。								
	対象者(受益者)		枚方市内及び北河内7市在住・在学・在職等の自動車文庫利用者								
	現状・課題		最寄りに図書館及び分室等が設置されていない市民に対し、図書館サービスを提供している。 2週間に一度の巡回のため、近くに中央図書館、分館、分室がある市民に比べ、提供できるサービスに限りがある。								
	事業の概要		図書館及び分室を利用することが不便な地域の市民に対して、自動車文庫により図書館サービスを提供することを目的に、市内のステーションを巡回し、図書館資料の貸出・返却・予約受付の業務を行う。								
	年間の主な事務		・自動車文庫の運行 ・自動車文庫の維持管理								

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人員体制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績			
	正職員		1.04人	—	—	—	—		
	再任用		0.54人	—	—	—	—		
	任期付職員		0.80人	—	—	—	—		
	会計年度任用職員		0.00人	—	—	—	—		
	特別職非常勤		0.00人	—	—	—	—		
	附属機関委員		0.00人	—	—	—	—		
決算額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)	
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	14,878	—	—	—		
			会計年度任用職員	0	—	—	—		
			特別職非常勤	0	—	—	—		
			附属機関委員	0	—	—	—		
			人件費計	14,878	—	—	—		
		物件費計	228	—	—	—	313	72.8%	
	歳出計		15,106	—	—	—			
	歳入	国庫支出金	0	—	—	—	0	※留意事項 ※正職員・再任用・任期付 の人件費は、人員配置を もとに平均人件費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。	
		府支出金	0	—	—	—	0		
		受益者負担(使用料・手数料)	0	—	—	—	0		
		市債	0	—	—	—	0		
		その他	0	—	—	—	0		
		歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	—	—	—	0		
	一般財源(物件費充当分のみ)		228	—	—	—	313		



3. 具体的な活動(アクティビティ)						
年間の主な活動指標		単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
①	自動車文庫により市内のステーションを巡回して図書館サービスを提供する(ステーションの箇所数)	箇所	27 箇所	— 箇所	— 箇所	— 箇所

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明

主に市内のステーション近辺の住民が、自動車文庫を利用する。

自動車文庫の利用者数

R6

R7

R8

R9

単位

目標

16,400

17,200

18,000

18,900

人

実績

17,162

—

—

—

人

算出方法

自動車文庫の延べ利用者数

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

指標

説明

市内全域で図書館資料の貸出・返却・予約受付などのサービスが受けられる。

自動車文庫の貸出冊数(個人・団体)

R6

R7

R8

R9

単位

目標

47,000

48,000

49,000

50,000

冊

実績

47,411

—

—

—

冊

算出方法

自動車文庫の貸出冊数(個人・団体)

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)					
図書館、分室など固定施設を利用しにくい市民への図書館サービスのセーフティネットとしての役割を担うとともに、その機動力を生かし団体貸出配本サービスなど取り組みを行うことで図書館蔵書の利用促進を図る。					

6. 取組実績に対する自己分析・総括					
R6 年度	(自動車文庫) 出動日数(2台合計):668日 貸出冊数(個人):43,615冊 予約受付件数(個人):8,005件 延べ利用者数:17,162人 市主催のイベント等へ参加し、認知度が上昇したことにより、予約受付、延べ利用者が増加し、延べ利用者数と貸出冊数も当初の目標を上回ることができたと思う。				
R7 年度					
R8 年度					
R9 年度					

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)			
R7年度 取組方針	・全域サービス実施のために、固定施設の利用が難しい地域や市民に図書館利用機会を提供する。 ・機動力を生かして図書館利用の便さをPRする等の取り組みを実施しながら、最適な役割分担と配置の検討を進める。 ・企業版団体貸出の試行実施を行う。	R7年度 方向性	現状維持

参 考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	—	—	—

令和6年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 478
事務事業名称			障害者利用促進事業							
担当部署(R7年度機構)			部:	総合教育部	課:	中央図書館	区分	任意の事業		
基本項目	総合計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち					細区分	任意の区分	
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち					性質	社会福祉	
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度 —	R7年度	R8年度	R9年度	
	事業期間		事業開始： 1982(S57)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)							
	根拠法令等		図書館法、視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律、枚方市立図書館条例							
	関係附属機関等		該当なし							
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —							
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		録音・点字資料の貸出や、対面読書、おはなし会など利用者の障害に対応したサービスが提供されることで、利用者が障害の有無にかかわらず、図書館サービスが広く利用される状態。							
	対象者(受益者)		・視覚障害者等(視覚障害者、肢体不自由者、寝たきりの人、学習障害者等)・枚方市内及び北河内7市在住・在学・在職等の図書館利用者							
	現状・課題		障害の種類に応じ、各種のサービスを実施している。 障害の内容によって利用できない図書館サービスが生じてしまう。							
	事業の概要		障害のある利用者等の読書環境を整備するとともに、音訳協力者等の養成を行い、障害者等の利用促進を図ることを目的として、録音・点字資料の貸出、製作、視覚障害者への対面読書、聴覚障害者向けおはなし会及び手話・字幕付映像資料の制作等を行うとともに音訳協力者の養成を行う。							
	年間の主な事務		・録音・展示資料の貸し出し・製作 ・視覚障害者への対面読書の実施 ・聴覚障害者向けお話し会及び手話・字幕付き映像資料の制作 ・音訳協力者の養成 ・読書バリアフリー関連イベントの開催							

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人員体制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績			
	正職員		3.37人	—	—	—			
	再任用		0.00人	—	—	—			
	任期付職員		0.80人	—	—	—			
	会計年度任用職員		0.73人	—	—	—			
	特別職非常勤		0.00人	—	—	—			
	附属機関委員		0.00人	—	—	—			
決算額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)	
	歳出	正職員、再任用、任期付職員	29,914	—	—	—	—		
		会計年度任用職員	3,618	—	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—	—		
		人件費計	33,532	—	—	—	—		
		物件費計	930	—	—	—	—	1,149	80.9%
	歳出計		34,462	—	—	—	—		
	歳入	国庫支出金	440	—	—	—	—	0	※正職員・再任用・任期付の 人件費は、人員配置を もとに平均人件費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。
		府支出金	220	—	—	—	—	0	
		受益者負担(使用料・手数料)	0	—	—	—	—	0	
		市債	0	—	—	—	—	0	
		その他	0	—	—	—	—	0	
		歳入計(物件費に充当される特定財源)	660	—	—	—	—	0	
	一般財源(物件費充当分のみ)		270	—	—	—	—	1,149	

3. 具体的な活動(アクティビティ)						
	年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
①	録音・点字資料の貸出、製作、視覚障害者への対面読書、聴覚障害者向けおはなし会及び手話・字幕付映像資料の制作等を行う。	タイトル	6,858 タイトル	— タイトル	— タイトル	— タイトル
②	録音図書利用促進事業を実施する	回	10 回	— 回	— 回	— 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明

障害を有する利用者が図書館に来館し、対応したサービスを受けることができる。

指標

点字・録音図書貸出タイトル数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	2,789	2,761	2,719	2,722	タイトル
実績	2,687	—	—	—	タイトル

算出方法

点字・録音図書貸出タイトル数。目標値は直近3か年の平均値
令和7年度以降の目標値は令和6年度以降目標値を実績値として算出

ロジックモデル

アウトプット②

説明

視覚障害者等がデジタイ化再生機器を利用する

指標

視覚障害者等の利用人数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	14	14	14	14	人
実績	10	—	—	—	人

算出方法

視覚障害者等の利用人数

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明

利用者の障害の有無にかかわらず、読書活動に親しむことにつながる。

指標

障害を有する利用登録者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	125	125	125	125	人
実績	121	—	—	—	人

算出方法

障害を有する利用登録者数

アウトカム②

説明

利用者の障害の有無にかかわらず、読書活動に親しむことにつながる。

指標

障害を有する利用登録者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	125	125	125	125	人
実績	121	—	—	—	人

算出方法

障害を有する利用登録者数

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)					
点字・録音図書を3,000タイトル貸し出す。					

6. 取組実績に対する自己分析・総括					
R6年度	・視覚障害者サービスとして、対面読書を87回実施した。 ・聴覚障害者サービスとして、手話でたのしみおはなし会を4回実施(延べ60人参加)した。 ・これまで利用してきた利用者の高齢化や死亡により、利用を休止することが増え、点字・録音図書の貸出は減少傾向にある。このため読書相談や資料案内などを通じて読書要求の拡大に努めた。また、加齢に伴い通常の活字による読書が困難になった高齢者が貸出に占める割合は、新規登録を含めて増える傾向にあり、これらの状況をふまえて引き続きサービスの周知に努める。 ・諸サービスについて、利用者の拡大と、録音資料の製作や対面読書を担う音訳協力者の養成が課題である。				
R7年度					
R8年度					
R9年度					

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)					
R7年度取組方針	これまで通り、読書バリアフリー法を踏まえ、障害者に対する読書支援を継続しサービスの充実に努める。				R7年度方向性 現状維持

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	—	—	—

令和6年度 事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調査番号 479

事務事業名称			図書館資料購入事務							
担当部署 (R7年度機構)			部：総合教育部		課：中央図書館		区分	任意の事業		
基本項目	総合計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち					細区分	任意の区分	
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち					性質	子育て・教育	
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	事業期間		事業開始： 1973(S48)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)							
	根拠法令等		図書館法、枚方市立図書館条例							
	関係附属機関等		該当なし							
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —							
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		蔵書バランスや市民のニーズ等を踏まえ、あらゆる分野にわたり正確で新しい情報を提供できる資料を計画的に購入し、図書館サービスの充実が図られた状態。							
	対象者(受益者)		枚方市内及び北河内7市在住・在学・在職等の図書館利用者							
	現状・課題		図書館サービスの充実のため、蔵書バランスや市民ニーズを考慮し、幅広い分野の資料を購入している。 1冊当たりの資料費価格の上昇が見込まれ、購入冊数が減った場合、市民が求めている新しい図書・資料との出会いが困難となる。							
	事業の概要		基本的な蔵書構成を維持し、かつ市民の多様なニーズに応えるため、娯楽のための雑誌・読み物から専門書に至るまで、幅広くかつ効率的に資料を購入し、図書館サービスの充実を図ることを目的として、入門書から専門書に至る難易度ごとの蔵書バランスを意識した資料及び教養を高める資料や市民のニーズ等を踏まえた、あらゆる分野にわたり正確で新しい情報を提供できる資料を計画的に購入する。							
年間の主な事務		・図書館資料の選書、発注、受け入れ。								

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

	(人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
人員体制	正職員	3.48人	—	—	—
	再任用	1.46人	—	—	—
	任期付職員	7.80人	—	—	—
	会計年度任用職員	1.60人	—	—	—
	特別職非常勤	0.00人	—	—	—
	附属機関委員	0.00人	—	—	—

			(千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
決算額	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	73,586	—	—	—		
			会計年度任用職員	7,929	—	—	—		
			特別職非常勤	0	—	—	—		
			附属機関委員	0	—	—	—		
		人件費計		81,515	—	—	—		
		物件費計		79,942	—	—	—	80,000	99.9%
	歳出計			161,457	—	—	—		
	歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付 の人件費は、人員配置を もとに平均人件費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。
		府支出金		325	—	—	—	1,000	
		受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
		市債		0	—	—	—	0	
		その他		3,723	—	—	—	3,679	
		歳入計(物件費に充当される特定財源)		4,048	—	—	—	4,679	
	一般財源(物件費充当分のみ)			75,894	—	—	—	75,321	

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 雑誌・読み物から専門書に至るまで、幅広く資料を購入する。	冊	61,177 冊	— 冊	— 冊	— 冊

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

説明

購入資料を図書館資料として整備・配架し、市民の利用に供する。

指標

購入した図書館資料数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	40,000	40,000	40,000	40,000	冊
実績	61,177	—	—	—	冊

算出方法

1年間で購入した資料数

直接アウトカム(結果による変化・便益)

説明

蔵書バランスや市民ニーズを考慮し、幅広い分野の資料を購入する。

指標

利用者満足度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	80	83	86	89	%
実績	85	—	—	—	%

算出方法

窓口アンケートにおいて図書館の蔵書構成について「満足」「概ね満足」と回答した割合

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

幅広い図書資料の購入を行い、全館での貸し出す数を増加させる。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	◆選書に際しては、蔵書計画に定める収集方針を踏まえ、蔵書バランスを重視した。また、利用が多く劣化した本や情報の古い分野の蔵書の一部を更新した。 ◆令和6年9月17日の市駅前図書館開設に向けた蔵書として、「枚方市立図書館蔵書計画」に基づき、適正な選書を行い、購入事務を行った。 ◆図書館の蔵書となる図書を児童書19,780冊、一般書41,397冊、合計61,177冊購入した。
R7 年度	
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度 取組方針	「枚方市立図書館蔵書計画」に基づき、選書した図書を計画的に購入する。 ICタグシステム導入後については、蔵書の利用状況などの分析を行い、選書の精度をあげる取り組みを進める。	R7年度 方向性	現状維持
--------------	---	-------------	------

参 考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	—	—	—

令和6年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調書番号 480
事務事業名称		図書館分館管理運営事業								
担当部署(R7年度機構)		部:	総合教育部	課:	中央図書館	区分	任意的事業			
基本項目	総合計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち				細区分	任意的区分		
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち				性質	子育て・教育		
	市長公約との関係性		所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
						○				
	事業期間		事業開始： 1979(S54)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)							
	根拠法令等		図書館法、枚方市立図書館条例							
	関係附属機関等		該当なし							
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		地域の拠点として他の図書館施設と連携した運営がなされ、市内全域できめ細かな図書館サービスを受けることができる状態。							
	対象者(受益者)		枚方市内及び北河内7市在住・在学・在職等の図書館利用者							
	現状・課題		中央図書館から離れた地域の市民に、図書館サービスを提供している。 中央図書館と比べ、資料数が少ない。							
	事業の概要		指定管理者による運営を行っている全8分館において、さらに効果的・効率的な図書館分館運営を行うことを目的とし、地域の図書館サービスの拠点として、中央図書館、図書館分室、また、他の分館と連携を図りながら、図書館資料の貸出や予約の受付、レファレンスサービス(利用者が調べたい内容に対し、適切な図書館資料や情報等を提供して調査支援を行うサービス)、各種行事等の充実した図書館サービスの提供を行っていく。							
	年間の主な事務		- 適切な管理、運営のためのモニタリング - 市駅前図書館を除く、光熱水費(ガス(香里ヶ丘を除く)、電気)の支払い - 工事、及びそれに伴う設計に伴う事務 - 分館長会議(年12回)の開催							

2. 事務事業への投入コスト(インプット)					
人員体制	(人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.78人	—	—	—
	再任用	0.00人	—	—	—
	任期付職員	0.00人	—	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
	特別職非常勤	0.00人	—	—	—
	附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
	歳出	内訳						
		正職員、再任用、任期付職員	5,997	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		5,997	—	—	—		
	物件費計		482,836	—	—	—	487,470	99.0%
	歳出計		488,833	—	—	—		
	歳入	国庫支出金	0	—	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付の 人件費は、人員配置をもとに 平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。
		府支出金	0	—	—	—	0	
		受益者負担(使用料・手数料)	288	—	—	—	100	
		市債	0	—	—	—	0	
		その他	43,105	—	—	—	63,053	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)		43,393	—	—	—	63,153	
	一般財源(物件費充当分のみ)		439,443	—	—	—	424,317	



3. 具体的な活動(アクティビティ)						
年間の主な活動指標		単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
①	地域拠点として分館を設置し図書館サービスを提供する。	館	8 館	一 館	一 館	一 館

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

説明

近隣住民が主に図書館分館を利用する。

分館の来館者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	1,392,000	1,436,000	1,472,000	1,515,000	人
実績	1,670,665	—	—	—	人

算出方法

分館の来館者数の合計

直接アウトカム(結果による変化・便益)

説明

市内全域で図書館資料の貸出・返却・予約受付などのサービスが受けられる。

図書館分館の利用者満足度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	80	83	86	89	%
実績	78	—	—	—	%

算出方法

窓口アンケートにおいて分館の回答者が満足度に関する項目で「満足」「概ね満足」と回答した割合

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)	
分館への来館者数は年間160万人を超える。	

6. 取組実績に対する自己分析・総括	
R6 年度	・全7分館を指定管理者が運営している。 ・9月17日から市駅前図書館を分館として開設し、分館数は全8館。 ・開館日数2,402日／7館(1館平均約343日) 185日／市駅前 - 貸出冊数(個人):2,972,430冊／8館 - 予約受付件数(個人):660,915件／8館 - 延べ利用者数:1,577,368人／8館
R7 年度	
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)			
R7年度 取組方針	図書館サービスにおける地域の拠点として、図書館資料の貸出、レファレンスサービス等を引き続き提供する。 ・指定管理者による管理運営のため、モニタリング等を通じ、適正な管理・運営が行われているかの把握に努める。 ・中央図書館・市駅前図書館に続き、ICタグシムを導入するとともに、予約図書受取コーナーを設置する。	R7年度 方向性	現状維持

参 考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		拡充	現状維持	—	—	—

令和6年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調書番号 481	
事務事業名称			図書館分室管理運営事業								
担当部署(R7年度機構)			部：総合教育部		課：中央図書館		区分		任意的事業		
基本項目	総合計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち					細区分	任意的区分		
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち					性質	子育て・教育		
	市長公約との関係性		所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		
	事業期間		事業開始：1973(S48)年度 ～ 事業終了予定：未定(継続実施含む)								
	根拠法令等		図書館法、枚方市立図書館条例								
	関係附属機関等		該当なし								
	関係補助金等		該当なし 補助金性質：—								
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		地域の拠点として他の図書館施設と連携した運営がなされ、市内全域へのきめ細かな図書館サービスを受けることができる状態。								
	対象者(受益者)		枚方市内及び北河内7市在住・在学・在職等の図書館利用者								
	現状・課題		最寄りに中央図書館や分館がない市民に図書館サービスを提供している。 中央図書館、分館に比べ開室日、開室時間が短く、図書館の利用が制限される。また、資料数も中央図書館、分館に比べ少ない。								
	事業の概要		分館のサービス圏域外で比較的人口が集中している地域に設置し、中央図書館および分館と連携しながら、図書館資料の貸出や読書支援等の図書館サービスを提供することを目的として、図書館資料の貸出や予約の受付、各種行事等を行う。								
	年間の主な事務		・図書館資料の貸し出し ・図書館資料の予約・リクエストの受付 ・利用者向け行事の開催								

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人員体制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績			
	正職員		1.08人	—	—	—			
	再任用		0.27人	—	—	—			
	任期付職員		8.39人	—	—	—			
	会計年度任用職員		4.37人	—	—	—			
	特別職非常勤		0.00人	—	—	—			
	附属機関委員		0.00人	—	—	—			
決算額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)	
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	51,750	—	—	—		
			会計年度任用職員	21,657	—	—	—		
			特別職非常勤	0	—	—	—		
			附属機関委員	0	—	—	—		
		人件費計		73,407	—	—	—		
	物件費計		2,856	—	—	—	2,919	97.8%	
	歳出計		76,263	—	—	—			
	歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付 の人件費は、人員配置を もとに平均人件費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。
		府支出金		0	—	—	—	0	
		受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
		市債		0	—	—	—	0	
		その他		0	—	—	—	0	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	—	—	—	0		
	一般財源(物件費充当分のみ)		2,856	—	—	—	2,919		

3. 具体的な活動(アクティビティ)						
年間の主な活動指標		単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
①	地域拠点として分室を設置し図書館サービスを実施する	室	6 室	一 室	一 室	一 室

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明

近隣住民が主に図書館分室を利用する。

分室の来館者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	140,000	144,000	148,000	152,000	人
実績	111,897	—	—	—	人

算出方法

分室の来館者数

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明

市内全域で図書館資料の貸出・返却・予約受付などのサービスが受けられる。

図書館分室の利用者満足度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	80	83	86	89	%
実績	78	—	—	—	%

算出方法

窓口アンケートにおいて図書館分室の回答者が満足度に関する項目で「満足」「概ね満足」と回答した割合

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)	
分室の来館者が16万人を超える。	

6. 取組実績に対する自己分析・総括	
R6年度	(分室合計) ※市駅前サービススポットを含む 年間開館日数:1,395日 貸出冊数:383,526冊 予約リクエスト受付件数(個人):122,337件 延べ利用者数:205,302人 分室は中央図書館、分館に比べ開室日、開室時間が短く、図書館の利用が制限される。また、資料数も中央図書館、分館に比べ少ない中ではあるが、窓口アンケート結果によると、「職員の窓口対応」の満足度が98.6%と高く、「職員による資料や情報提供」の満足度も89.4%であり、適正に図書館運営を行った。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)			
R7年度取組方針	・利用状況、施設状況、効率的な人員配置の検討を進め、効果的な図書館利用促進と市民の満足を図る。 ・利用者が自身の読書履歴を記帳できる通帳型冊子「ひらかたブックダイアリー」の印字機を設置する。	R7年度方向性	現状維持

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	—	—	—

令和6年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 482	
事務事業名称			中央図書館管理運営事業								
担当部署(R7年度機構)			部：総合教育部		課：中央図書館		区分	任意の事業			
基本 項目	総合 計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち					細区分	任意の区分		
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち					性質	子育て・教育		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度 —	R7年度	R8年度	R9年度		
	事業期間		事業開始： 2005(H17)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)								
	根拠法令等		図書館法、枚方市立図書館条例								
	関係附属機関等		該当なし								
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —								
	詳細 項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		中央図書館が枚方市立図書館の核として、市の図書館施設を統轄することで、連携した運営がなされ、市内全域できめ細かな図書館サービスを受けることができる状態。							
対象者(受益者)		・枚方市内及び北河内7市在住・在学・在職の利用者 ・その他図書館利用者									
現状・課題		枚方市立図書館の核として市全体の図書館運営の企画立案等を実施するとともに、地域の図書館として市民に図書館サービスを提供している。 市内図書館・分室における図書館運営及び図書館サービスの統括が必要。									
事業の概要		枚方市立図書館の核として図書館運営に係る企画立案、貸出サービス、読書活動の推進、関連機関との連携等の中心となり図書館サービスを提供することを目的として、幅広い分野の図書館資料を所蔵し、各図書館、分室、自動車文庫の貸出を支援するとともに、他の公共図書館との相互貸借、参考業務、児童サービスなどの中心となり各種図書館サービスを行う。									
年間の主な事務		・図書館資料の貸出、予約・リクエストの受付 ・分館、分室、自動車文庫の支援 ・大阪府、他市との相互貸借事務									

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人員体制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績			
	正職員		7.39人	—	—	—			
	再任用		2.88人	—	—	—			
	任期付職員		7.80人	—	—	—			
	会計年度任用職員		2.60人	—	—	—			
	特別職非常勤		0.00人	—	—	—			
	附属機関委員		0.00人	—	—	—			
決算額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)	
	歳出	正職員、再任用、任期付職員	111,211	—	—	—			
		会計年度任用職員	12,885	—	—	—			
		特別職非常勤	0	—	—	—			
		附属機関委員	0	—	—	—			
		人件費計	124,096	—	—	—			
		物件費計	24,253	—	—	—	24,301	99.8%	
	歳出計		148,349	—	—	—			
	歳入	国庫支出金	0	—	—	—	0		
		府支出金	0	—	—	—	0	(留意事項)	
		受益者負担(使用料・手数料)	0	—	—	—	0	※正職員・再任用・任期付の人員配置を	
		市債	0	—	—	—	0	もとに平均人件費を乗算	
		その他	0	—	—	—	0	※「歳入」欄には物件費に	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	—	—	—	0	充当されるもののみ記載	
	一般財源(物件費充当分のみ)		24,253	—	—	—	24,301	されています。	

3. 具体的な活動(アクティビティ)						
	年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
①	枚方市立図書館の核として幅広い図書館サービスの提供や事業(行事・イベント等)を実施する。	回	188 回	一 回	一 回	一 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

説明

市民が中央図書館を利用する。

指標

中央図書館の来館者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	398,000	410,000	420,000	433,000	人
実績	455,624	—	—	—	人

算出方法

中央図書館の来館者数

直接アウトカム(結果による変化・便益)

説明

市内全域で図書館資料の貸出・返却・予約受付などのサービスが受けられる。

指標

中央図書館の利用者満足度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	80	83	86	89	%
実績	83	—	—	—	%

算出方法

窓口アンケートにおいて中央図書館の回答者が満足に関する項目で「満足」「概ね満足」と回答した割合

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)	
枚方市立図書館の核として、他の図書館施設を統轄するとともに、連携した運営をし、市内全域へのきめ細かな図書館サービスが受けられる状態にする。	

6. 取組実績に対する自己分析・総括	
R6年度	年間開館日数:291日 貸出冊数(個人):703,765冊 予約受付件数(個人):58,606件 延べ利用者数:310,571人 ・3月からICタグを活用した自動貸出機を導入。これまでの資料貸出業務から、利用者の調べもの調査等へ力を入れていく必要がある。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)		
R7年度取組方針	引き続き市内図書館ネットワークの拠点として図書館サービスを提供する。イベントなど、利用者の増加が見込めるような取り組みを検討・実施していく。	R7年度方向性 現状維持

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	—	—	—

令和6年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 483	
事務事業名称			図書館等巡回事業								
担当部署(R7年度機構)			部：総合教育部		課：中央図書館		区分		任意的事業		
基本 項目	総合 計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち					細区分	任意的区分		
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち					性質	子育て・教育		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度 —	R7年度	R8年度	R9年度		
	事業期間		事業開始： 2000(H12)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)								
	根拠法令等		図書館法、枚方市立図書館条例								
	関係附属機関等		該当なし								
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —								
	詳細 項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		市民が資料の返却の際、市内のいずれの図書館でも返却が可能、また、市民が希望する資料が最寄りの館にない場合でも、市内に所蔵があれば、数日中に提供が可能になる。							
対象者(受益者)		・枚方市内在住・在学・在職等の図書館利用者、広域利用者									
現状・課題		利用者が希望する他館所蔵の資料の提供、他館で借りた資料の返却が行えている。 燃料費、人件費の高騰のため、予算の確保が課題となる。									
事業の概要		各図書館・分室が所蔵している図書館資料について、他の図書館・分室で貸出・返却が行えるよう図書館資料の巡回運搬を実施し、市民の利便性の向上を図ることを目的として、各図書館・分室が所蔵している図書館資料を、市民が希望する図書館・分室で貸出・返却が出来るよう中央図書館を起点に各図書館・分室を巡回する図書館資料の運搬を委託により実施している。									
年間の主な事務			・巡回委託業者との調整 ・委託仕様書の作成、契約検査課への委託契約締結の依頼								

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人員体制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績			
	正職員		1,77人	—	—	—			
	再任用		0.50人	—	—	—			
	任期付職員		0.80人	—	—	—			
	会計年度任用職員		0.20人	—	—	—			
	特別職非常勤		0.00人	—	—	—			
	附属機関委員		0.00人	—	—	—			
決算額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)	
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	20,277	—	—	—		
			会計年度任用職員	48,219	—	—	—		
			特別職非常勤	0	—	—	—		
			附属機関委員	0	—	—	—		
			人件費計	68,496	—	—	—		
			物件費計	12,705	—	—	—	15,039	84.5%
	歳出計		81,201	—	—	—	—		
	歳入	国庫支出金	0	—	—	—	0		
		府支出金	0	—	—	—	0		
		受益者負担(使用料・手数料)	0	—	—	—	0		
		市債	0	—	—	—	0		
		その他	0	—	—	—	0		
		歳入計(物件費に充当される特定財源)	0	—	—	—	0		
	一般財源(物件費充当分のみ)		12,705	—	—	—	15,039		

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の
人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算
しています。
※「歳入」欄には物件費に
充当されるもののみ記載
されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)						
年間の主な活動指標		単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
①	図書館資料のサービスポイントへの巡回運搬を実施する(サービスポイントの箇所数)	箇所	15 箇所	— 箇所	— 箇所	— 箇所

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

説明

図書館や分室間での所蔵資料の相互貸借が可能となる。

指標

R6

R7

R8

R9

単位

目標

499

448

452

451

回

実績

448

—

—

—

回

算出方法

分館巡回回数+分室巡回回数

※ R7年度以降巡回回数の見直しを行った。

直接アウトカム(結果による変化・便益)

説明

最寄りの各図書館サービスポイントで求める資料を借りることができる。

指標

インターネットによる予約件数

R6

R7

R8

R9

単位

目標

900,000

1,000,000

1,100,000

1,200,000

件

実績

943,314

—

—

—

件

算出方法

インターネットを経由して予約を受け付けた件数

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)	
予約資料が確保できてから、利用者に提供するまでの期間を短縮する。	

6. 取組実績に対する自己分析・総括	
R6年度	・図書館業務に必要な不可欠な図書館資料の配送のため、適切な巡回業務に努めた。 ・中央図書館と各図書館分館・分室を巡回する図書館資料の運搬を委託により計画的に実施した。 ・物量の増加が見込まれる市駅前図書館への巡回回数を多めにするなど巡回ルートの見直しを行い、より迅速に予約図書を利用者へ渡すことができるよう準備を行った。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)			
R7年度取組方針	引き続き図書館業務に必要な不可欠な図書館資料の配送のため、適切な巡回業務に努める。		R7年度方向性 現状維持

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	—	—	—

令和6年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 484
事務事業名称		子どもに本を届ける事業								
担当部署(R7年度機構)		部:	総合教育部	課:	中央図書館	区分	任意的事業			
基本項目	総合計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち				細区分	任意的区分		
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち				性質	子育て・教育		
	市長公約との関係性		所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	事業期間		事業開始: 2016(H28)年度 ~ 事業終了予定: 未定(継続実施含む)							
	根拠法令等		図書館法、子どもの読書活動の推進に関する法律、枚方市立図書館条例、枚方市基金条例							
	関係附属機関等		該当なし							
	関係補助金等		該当なし 補助金性質: —							
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		学校・保育所(園)・幼稚園や図書館などを利用する子どもたちがよりたくさんの本と出会うことができる。							
	対象者(受益者)		枚方市内在住・在学の子ども 寄附希望者							
	現状・課題		子どもたちにはより多くの本との出会いを提供している。 寄附したくなる魅力の創出。							
	事業の概要		子どもがたくさんの本と出会うことができるように、基金を積み立て、その基金を使って絵本や児童書を購入する。以下の方法で基金を積み立てる。1.ふるさと寄附金による基金の積み立て。2.市民からいただいた寄贈図書のうち、図書館資料として活用しなかった図書については売却し、その売却益を基金に積み立てる。積み立てた基金で絵本や児童書を購入し、学校や保育所(園)、幼稚園、地域の子育て団体に届ける。また、購入した児童書を、授業での調べ学習や読み聞かせ、朝読書、朗読会等で活用する。							
	年間の主な事務		・基金の積み立て ・児童書の購入							

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人員体制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績			
	正職員		0.97人	—	—	—			
	再任用		0.50人	—	—	—			
	任期付職員		1.80人	—	—	—			
	会計年度任用職員		0.10人	—	—	—			
	特別職非常勤		0.00人	—	—	—			
	附属機関委員		0.00人	—	—	—			
決算額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)	
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	19,133	—	—	—		
			会計年度任用職員	495,567	—	—	—		
			特別職非常勤	0	—	—	—		
			附属機関委員	0	—	—	—		
		人件費計		514,700	—	—	—		
	物件費計		17,728	—	—	—	17,613	100.7%	
	歳出計		532,428	—	—	—			
	歳入	国庫支出金	0	—	—	—	0	※留意事項 ※正職員・再任用・任期付の 人件費は、人員配置をもとに 平均人件費を乗算しています。 ※「歳入」欄には物件費に充 当されるもののみ記載されてい ます。	
		府支出金	0	—	—	—	0		
		受益者負担(使用料・手数料)	0	—	—	—	0		
		市債	0	—	—	—	0		
		その他	17,728	—	—	—	20,403		
	歳入計(物件費に充当される特定財源)		17,728	—	—	—	20,403		
	一般財源(物件費充当分のみ)		0	—	—	—	0		

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の
人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算
しています。
※「歳入」欄には物件費に
充当されるもののみに記載
されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)					
年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① ふるさと寄付金や売却益を基金に積み立てる	円	12,270,561 円	— 円	— 円	— 円

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット①

説明

基金を活用して絵本や児童書を購入する。

基金繰入金で児童書、児童向け電子書籍を購入する。

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	100	—	—	—	%

算出方法

前年度基金に積み立てた金額を取り崩し、翌年度の児童向け資料の購入に充て、その執行率を指標とする。

直接アウトカム①

説明

小学校全児童(6歳から12歳)のうち電子図書館を閲覧した児童が占める率の増加

小学校児童(6歳から12歳)の電子図書館閲覧実利用率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	10	12	14	16	%
実績	55	0	0	0	%

算出方法

6歳から12歳の電子図書館閲覧実利用者数／市立全児童数

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)	
前年度積み上げられた基金全額でも児童書等の購入。	

6. 取組実績に対する自己分析・総括	
R6年度	積立金額 12,270,561円 うち指定寄附金分 12,153,271円 うち古紙売却益分 113,982円 うち利子収入 3,308円 積立金のうち5,500,000円を子どもに本を届ける事業へ充当し、子ども読書活動推進のための団体貸出等用の児童書として2,337冊購入した他、同時に複数人が閲覧できる児童書の電子書籍(読み放題パック)を562タイトル購入した。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)			
R7年度取組方針	事業について、さらに広範囲かつ積極的にPRを行う。 学校など現場が求めている本の把握と、適切な蔵書を購入する。 電子図書館の利用の多い児童向けの電子書籍の充実を図る。	R7年度方向性	現状維持

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	—	—	—

令和6年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 510
事務事業名称		電子図書館運営事業								
担当部署(R7年度機構)		部:	総合教育部	課:	中央図書館	区分	任意的事業			
基本項目	総合計画	基本目標	3.一人ひとりの成長を支え、豊かな心を育むまち				細区分	任意的区分		
		施策目標	17.誰もが文化芸術やスポーツなどに親しみ、学び、感動できるまち				性質	子育て・教育		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度 ○	R7年度	R8年度	R9年度	
	事業期間		事業開始： 2021(R3)年度 ～ 事業終了予定： 未定(継続実施含む)							
	根拠法令等		図書館法、枚方市立図書館条例							
	関係附属機関等		該当なし							
	関係補助金等		該当なし 補助金性質： —							
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		図書館がやむをえず休館した場合でも、図書館利用者が継続してサービスを受けられ、また来館が難しく、図書館を利用できていなかった方がサービスを受けられる。そのほか、視覚障害者等の活字での読書が困難な方が、アクセシブルな形態でのサービスを受けられる状態。							
	対象者(受益者)		図書館利用者、身体障害者や高齢者等の来館が難しい方 タブレットを貸与されている市内全児童・生徒 市内公共施設の利用者 視覚障害者や学習障害者等							
	現状・課題		図書館に来館しにくい利用者にサービスを提供している。 紙の資料に比べ高価なため資料費の確保が課題となる。							
	事業の概要		- 電子図書館システムの導入により、コロナ禍以後の生活様式に対応した非来館型サービスを提供する。 - 読み上げ機能を備えた電子図書館システムを導入することにより、視覚障害者や学習障害者等の活字での読書が困難な方へのサービスを行う。 - 市内全児童・生徒に貸与されたタブレットにより、電子書籍を活用した学校教育の支援を行うとともに、読書習慣の形成を図る。							
	年間の主な事務		- 電子書籍の購入。 - 市内小中学校の児童・生徒向けの電子図書館の利用案内							

2. 事務事業への投入コスト(インプット)									
人員体制	(人)		R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績			
	正職員		0.78人	—	—	—			
	再任用		0.00人	—	—	—			
	任期付職員		0.00人	—	—	—			
	会計年度任用職員		0.00人	—	—	—			
	特別職非常勤		0.00人	—	—	—			
	附属機関委員		0.00人	—	—	—			
決算額	(千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)	
	歳出	内 正職員、再任用、任期付職員	5,997	—	—	—			
		内 会計年度任用職員	0	—	—	—			
		内 特別職非常勤	0	—	—	—			
		内 附属機関委員	0	—	—	—			
		人件費計	5,997	—	—	—			
		物件費計	1,056	—	—	—	3,846	27.5%	
	歳出計		7,053	—	—	—			
	歳入	国庫支出金	0	—	—	—	0		
		府支出金	0	—	—	—	0		
		受益者負担(使用料・手数料)	0	—	—	—	0		
		市債	0	—	—	—	0		
		その他	0	—	—	—	0		
	歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	—	—	—	0		
	一般財源(物件費充当分のみ)		1,056	—	—	—	3,846		



(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の
人件費は、人員配置を
もとに平均人件費を乗算
しています。
※「歳入」欄には物件費に
充当されるもののみ記載
されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)						
年間の主な活動指標		単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
①	電子図書館システムを導入し、電子書籍の提供を開始する。	タイトル	13,177 タイトル	— タイトル	— タイトル	— タイトル

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

説明

電子書籍を実際に貸出し、非接触型・非来館型サービスを提供する。

電子書籍閲覧回数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	76,088	121,593	135,608	148,514	回
実績	188,340	—	—	—	回

算出方法

利用者が電子図書を閲覧した回数。目標値は直近3か年の平均値
 令和6年度の目標値は令和3年度の実績値が9か月分のため12か月換算して計算。
 令和8年度以降の目標値は令和7年度以降目標値を実績値として算出

直接アウトカム(結果による変化・便益)

説明

来館が難しい方でも電子書籍を借りることで図書館サービスを受けることができる。

電子書籍利用者へのwebアンケートによる利用者満足度

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	80	80	80	80	%
実績	53	—	—	—	%

算出方法

電子図書館利用者へのwebアンケートに基づく利用者満足度。

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)	
図書館利用登録者の75%が電子図書館を利用する。	

6. 取組実績に対する自己分析・総括	
R6年度	- 電子図書の蔵書冊数が少ない点と電子図書館の認知度を高める点が課題であるが子どもに本を届ける基金を活用し、同時に複数人がひとつのタイトルに閲覧できる読み放題パックを562タイトル購入した。 - 電子図書館利用統計 ログイン数:73,639回 閲覧回数:188,340回 貸出冊数:41,620冊 予約件数:9,364件
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)			
R7年度取組方針	本を届ける基金を活用し、同時に複数人がひとつのタイトルに閲覧できる読み放題パックを継続して購入するほか、児童書以外のコンテンツについてもニーズに即した選書を行い、購入していく。	R7年度方向性	現状維持

参 考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	—	—	—

令和6年度 事務事業実績測定調査

1. 事務事業の基礎情報										調査番号 906	
事務事業名称			図書館運営事務								
担当部署(R7年度機構)			部：総合教育部		課：中央図書館		区分		行政運営事業		
基本項目	総合計画	基本目標	9.施策体系外				細区分		行政運営区分		
		施策目標	99.施策体系外				性質		内部事務・行政運営		
	市長公約との関係性		所信表明 (R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度 —	R7年度	R8年度	R9年度		
	事業期間		事業開始： 1973(S48)年度				～		事業終了予定： 未定(継続実施含む)		
	根拠法令等		図書館法、枚方市立図書館条例								
	関係附属機関等		該当なし								
	関係補助金等		該当なし				補助金性質：		—		
詳細項目	事業の目的 (最終アウトカム) ・目指すべき状態 ・課題が解決した状態		・適正かつ効率的な図書館所管事務の執行 ・図書館サービスの向上								
	対象者(受益者)		図書館業務に携わる職員								
	現状・課題		図書館業務を適正かつ効率的に執行し、図書館サービスの向上を図る必要がある。								
	事業の概要		課の運営事務								
年間の主な事務		・文書管理 ・消耗品等の購入 ・図書館全体にかかる財務管理									

2. 事務事業への投入コスト(インプット)					
人員体制	(人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
	正職員	0.88人	—	—	—
	再任用	0.30人	—	—	—
	任期付職員	0.00人	—	—	—
	会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
	特別職非常勤	0.00人	—	—	—
	附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額	(千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)	
	歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	8,364	—	—	—			
			会計年度任用職員	0	—	—	—			
			特別職非常勤	0	—	—	—			
			附属機関委員	0	—	—	—			
		人件費計		8,364	—	—	—			
		物件費計		1,361	—	—	—	1,329	102.4%	
	歳出計			9,725	—	—	—			
	歳入	国庫支出金			0	—	—	—	0	(留意事項) ※正職員・再任用・任期付 の人件費は、人員配置を もとに平均人件費を乗算 しています。 ※「歳入」欄には物件費に 充当されるもののみ記載 されています。
		府支出金			0	—	—	—	0	
		受益者負担(使用料・手数料)			0	—	—	—	0	
		市債			0	—	—	—	0	
		その他			0	—	—	—	0	
	歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			1,361	—	—	—	—	1,329		



3. 具体的な活動(アクティビティ)					
年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
①			—	—	—

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)							直接アウトカム(結果による変化・便益)										
ロジックモデル	アウトプット①	説明						アウトカム①	指標	説明							
		指標		R6	R7	R8	R9			単位	指標		R6	R7	R8	R9	単位
		目標									目標						
		実績									実績						
		算出方法								算出方法							

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

6. 取組実績に対する自己分析・総括	
R6年度	・図書館及び分室の運営管理事務等を適切に実施した。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)			
R7年度取組方針	引き続き効果的・効率的な事務執行に努める。	R7年度方向性	現状維持

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		現状維持	現状維持	—	—	—